

9 都 市 整 備 部

都市計画区域

都市計画区域

平成24年(2012年)3月31日現在

名 称	備 考
北部大阪都市計画区域	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、三島郡島本町、豊能郡豊能町、及び能勢町

市街化区域及び市街化調整区域

市街化区域及び市街化調整区域

	面積 (ha)	備 考
市 街 化 区 域	約3,611	平成24年(2012年)3月31日現在
市街化調整区域	0	

都市計画地域地区の指定

1 用途地域

平成24年(2012年)3月31日現在

地 域	面積 (ha)	構 成 比 (%)
第1種低層住居専用地域	約 473	13.8
第2種低層住居専用地域	約 6.5	0.2
第1種中高層住居専用地域	約 1,123	32.8
第2種中高層住居専用地域	約 553	16.1
第1種住居地域	約 430	12.6
第2種住居地域	約 286	8.3
準住居地域	約 24	0.7
近隣商業地域	約 161	4.7
商業地域	約 107	3.1
準工業地域	約 184	5.4
工業地域	約 77	2.2
工業専用地域	0	0.0
計	約 3,425	100.0
無指定地域	約 186	—
合 計	約 3,611	—

3 特別用途地区

平成24年(2012年)3月31日現在(単位:ha)

スポーツ・レクリエーション地区 (万博記念公園地区)	特別商業業務地区 (江坂駅周辺地区)	合 計
約 92	約 78	約170

4 高度地区

平成24年(2012年)3月31日現在(単位:ha)

種類	10m第一種 高度地区	12m第二種 高度地区	12m第三種 高度地区	16m第三種 高度地区	16m第四種 高度地区	25m第三種 高度地区
面積	約471	約6.5	約22	約765	約495	約792
種類	25m第四種 高度地区	31m第三種 高度地区	31m第四種 高度地区	45m第四種 高度地区	合 計	
面積	約391	約165	約192	約88	約3,387	

5 高度利用地区

名 称	面 積 (ha)	備 考
国鉄吹田駅前地区	約 3.6	平成24年(2012年)3月31日 現在
JR吹田駅北口地区	約 1.8	

6 防火地域及び準防火地域

防火地域 (ha)	準防火地域 (ha)	備 考
約 121	約 1,062	平成24年(2012年)3月31日 現在

7 風致地区

名 称	面 積 (ha)	備 考
千里山東風致地区	約 40	平成24年(2012年)3月31日 現在
千里山西風致地区	約 88	
服部風致地区	約 11	
合 計	約 139	

8 生産緑地地区

地 区 数	面 積 (ha)	備 考
204地区	約 56.19	平成24年(2012年)3月31日 現在

9 地区計画

名 称	面 積 (ha)	備 考
山田駅周辺地区地区計画	約 4.6	平成24年(2012年)3月31日 現在
千里丘上地区地区計画	約 1.1	
新芦屋上地区地区計画	約 4.0	
長野東地区地区計画	約 8.8	
千里丘西地区地区計画	約 4.1	
千里ニュータウン地区地区計画	約 746	
吹田東部拠点地区地区計画	約 14.8	
原町4丁目・岸部北2丁目地区地区計画	約 3.5	
尺谷地区地区計画	約 6.0	
千里山駅前東地区地区計画	約 0.5	

土地区画整理

1 土地区画整理事業への取組

(1) 市施行

千里ニュータウン、万国博覧会会場跡地など計画的に整備された新市街地を北部に擁する本市は、大都市大阪のベッドタウン的性格が強く、既存市街地周辺は無計画な宅地化が進んできた。

このため、市として土地区画整理事業を推進し、公共施設の整備の改善及び宅地の利用の増進を図ってきた。地区については6地区あり、南吹田第2地区(110.5ha)は昭和46年度(1971年度)、江坂地区(15.2ha)は昭和48年度(1973年度)、南吹田第1地区(126.1ha)は昭和51年度(1976年度)、佐井寺東地区(45.8ha)は昭和61年度(1986年度)、佐井寺南地区(45.0ha)は平成9年度(1997年度)、佐井寺北地区(11.7ha)は平成10年度(1998年度)にそれぞれ換地処分の公告をした。

(2) 都市再生機構施行

吹田操車場跡地地区については、平成20年(2008年)7月に都市計画決定し、平成21年(2009年)4月に独立行政法人都市再生機構施行による事業計画の認可を取得し、施行中である。

(3) 組合施行

生産緑地法の改正と併せて実施された宅地化農地に対する宅地並み課税に伴い、農地を宅地化する開発圧力が高まっており、市街化区域内農地の無秩序な市街化が急激に進展することが憂慮されている。このような背景の中、国において、平成6年度(1994年度)に緑住まちづくり推進事業(現在、都市再生区画整理事業)が制度化されたことを受け、本市においても平成7年(1995年)12月に緑住区画整理事業補助金交付要綱が制定された。

地区については3地区あり、高塚地区(2.2ha)は平成13年度(2001年度)、山田駅東地区(2.9ha)は平成15年度(2003年度)、江坂町三丁目地区(1.6ha)は平成15年度(2003年度)にそれぞれ換地処分の公告をした。

2 これまでの土地区画整理事業

(1) 事業費

(単位：千円)

種別		区分		江坂地区	佐井寺東地区	佐井寺南地区	佐井寺北地区
		南吹田第1地区	南吹田第2地区				
総事業費		3,435,400	2,034,000	664,000	4,859,815	11,749,443	4,166,931
内訳	国庫補助金	658,800	1,100	—	1,588,450	2,979,275	1,107,250
	府補助金	341,700	900	47,500	—	—	—
	市費	708,900	192,743	49,900	1,516,903 (府費含む)	4,656,889 (府費含む)	2,729,164 (府費含む)
	保留地処分金	1,726,000	1,833,444	566,600	1,754,462	4,113,279	330,517
	その他	—	5,813	—	—	—	—

(2) 減歩率

種別		区分		江坂地区	佐井寺東地区	佐井寺南地区	佐井寺北地区
		南吹田第1地区	南吹田第2地区				
公共保留地合算減歩率		26.41	23.13	24.98	25.47	25.98	24.94
公共減歩率		19.78	17.49	21.28	22.73	22.82	23.63

(3) 土地の種目別施行前後対照表

(単位：m²)

地区 区分	南吹田第1地区		南吹田第2地区		江坂地区		佐井寺東地区	
	整理前	整理後	整理前	整理後	整理前	整理後	整理前	整理後
道路	71,048	278,923	62,076	216,217	2,289	29,421	8,649	90,371
水路	37,524	14,341	12,916	4,216	—	—	10,792	12,374
公園	—	39,734	—	34,705	—	4,730	—	16,467 (緑地含む)
広場	—	3,475	—	—	—	—	—	—
宅地	1,062,512	847,723	982,511	791,879	102,503	112,332	313,092	327,157
測量増	89,591	—	47,631	—	47,228	—	125,894	—
保留地	—	76,479	—	58,117	—	5,537	—	12,058
計	1,260,675		1,105,134		152,020		458,427	
事業年度	昭和39(1964)～ 昭和51(1976)		昭和38(1963)～ 昭和46(1971)		昭和45(1970)～ 昭和48(1973)		昭和51(1976)～ 平成6(1994)	

地区 区分	佐井寺南地区		佐井寺北地区	
	整理前	整理後	整理前	整理後
道路	24,693	103,997	10,221	30,465
水路	—	807	—	1,000
公園	—	17,068 (緑地含む)	1,510 (緑地含む)	5,110 (緑地含む)
広場	—	—	—	—
宅地	425,843	315,180	105,144	78,920
測量増	—	—	—	—
保留地	—	13,484	—	1,380
計	450,536		116,875	
事業年度	昭和58(1983)～ 平成20(2008)		昭和63(1988)～ 平成12(2000)	

(4) 公共団体施行の事業経過

区 分	南吹田第1地区	南吹田第2地区	江坂地区	佐井寺東地区
区域決定 年月日	昭和36年8月24日 (1961年)	昭和36年8月24日 (1961年)	昭和45年1月30日 (1970年)	昭和50年11月25日 (1975年)
事業決定 年月日	〃 40年2月10日 (1965年)	〃 39年3月30日 (1964年)	〃 45年7月15日 (1970年)	〃 51年10月26日 (1976年)
仮換地指定 年月日	〃 41年11月26日 (1966年)	〃 40年3月12日 (1965年)	〃 47年7月15日 (1972年)	〃 53年8月7日 (1978年)
換地処分 公告の日	〃 51年12月24日 (1976年)	〃 46年10月13日 (1971年)	〃 48年9月21日 (1973年)	〃 61年5月21日 (1986年)

区 分	佐井寺南地区	佐井寺北地区
区域決定 年月日	昭和56年12月18日 (1981年)	昭和63年11月18日 (1988年)
事業決定 年月日	〃 58年12月20日 (1983年)	平成元年3月31日 (1989年)
仮換地指定 年月日	〃 60年12月25日 (1985年)	〃 3年11月1日 (1991年)
換地処分 公告の日	平成9年11月7日 (1997年)	〃 11年1月13日 (1999年)

(5) 組合施行の事業経過

区 分	高塚地区	山田駅東地区	江坂町三丁目地区
区域公告 年月日	平成9年6月6日 (1997年)	平成11年1月14日 (1999年)	平成12年2月7日 (2000年)
組合設立認可告示 年月日	〃 10年3月13日 (1998年)	〃 11年3月23日 (1999年)	〃 12年4月1日 (2000年)
仮換地指定 年月日	〃 13年6月11日 (2001年)	〃 13年10月24日 (2001年)	〃 14年7月30日 (2002年)
換地処分 公告の日	〃 14年3月18日 (2002年)	〃 15年6月24日 (2003年)	〃 16年1月26日 (2004年)
組合解散認可 公告の日	〃 14年6月13日 (2002年)	〃 15年9月24日 (2003年)	〃 16年5月14日 (2004年)

3 高塚緑住土地区画整理事業

(1) 事業の目的

本地区は、大阪都心の北方約10kmに位置し、阪急千里線千里山駅に近接する交通至便な立地条件であるにもかかわらず、最大比高差が約20mにも及ぶ起伏の激しい地形であったことから周辺の市街地から取り残され、竹林や農地等の土地利用が今日まで継続されてきた。平成4年度(1992年度)の生産緑地法改正に伴う土地税制の見直しにおいて、地区内のほとんどが宅地化農地を選択する中、宅地並み課税に見合う有効な土地利用が求められた。

これらの現状にかんがみ、良好な都市基盤整備に併せて土地利用の増進を図るとともに、宅地化農地と生産緑地の交換分合等の土地利用整序を行うことにより、健全な市街地を造成し、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。

(2) 公共施設の整備改善

ア 土地の種目別施行前後対照表

(単位：m²)

種 別	整 理 前	整 理 後	摘 要
道 路	173	3,932	国有道路
公 園	—	648	
緑 地	—	747	
水 路	—	—	
宅 地	13,375	10,619	田、畑、宅地等(台帳地積)
測 量 増	7,933	—	
保 留 地	—	5,535	
計	21,481		

イ 道路計画

本事業完了時には次の道路が整備される。

(単位：m)

名 称	幅 員	延 長	摘 要
区 画 街 路	6.7	183	
	4.7	528	
小 計		711	
特 殊 街 路	4.7	25	
	階段	—	
小 計		25	
合 計		736	

ウ 公園計画

名 称	面 積 (㎡)	摘 要
公 園	648	遊戯施設、修景施設等を設置予定
緑 地	747	
計	1,395	

(3) 減歩率

本地区の減歩率計算は下記のとおりになる。

(単位：㎡)

整 理 前 宅地地積 (台帳地積)	同 更生地積 (測量増減 を加減し たもの)	整理後宅地地積		差引後減歩地積		減歩率 (%)	
		保留地を 含めた 宅地地積	保留地を 除いた 宅地地積	公 共 減 歩 地 積	公共保留地 を合算した 減歩地積	公 共 減 歩 地 積	公 共 保 留 地 合 算 減 歩 率
13,375	21,309	16,154	10,619	5,155	10,689	24.19	50.16

(4) 事業費

総事業費 19.50億円

補助金 4.86億円

保留地処分金 14.64億円

(5) 施行者

吹田市高塚緑住土地区画整理組合

4 山田駅東土地区画整理事業

(1) 事業の目的

本地区は、市域北部の基幹交通軸となっている大阪モノレールと阪急千里線の交通結節点に位置し、大半が竹林等の未利用地で占められてきた。

吹田市の新総合計画の中では「都市機能の整備」が必要な地区として位置付けられており、交通上の優れた立地特性を踏まえ、新たな地域核として整備することが望まれている。

本事業では、公共公益施設や都市型住宅を誘導しつつ、これらの土地利用に整合した公共施設の整備改善を行い、吹田市北部の地域核として市民共有の優れた街並みの形成を図るものである。

(2) 公共施設の整備改善

ア 土地の種目別施行前後対照表

(単位：㎡)

種 別	整 理 前	整 理 後	摘 要
道 路	1,094	5,825	国・市有道路
公園・緑地	2,245	4,300	
下水道敷	463	127	
宅 地	20,573	15,002	原野・田・畑・宅地等(台帳地積)
測量増	4,194	—	
保 留 地	—	3,315	
計	28,569		

イ 道路計画

本事業完了時には次の道路が整備される。

(単位：m)

名 称	幅 員	延 長	摘 要
区 画 街 路	10.0	41	
	9.5	44	
	9.0	395	
	8.0	82	
小 計		562	
特 殊 街 路	3.5~4.0	23	歩行者専用道路
	5.0	21	〃
	4.0	146	〃
小 計		190	
合 計		752	

ウ 公園計画

名 称	面 積 (㎡)	摘 要
公 園	4,300	遊戯施設、修景施設等を設置
計	4,300	

(3) 減歩率

本地区の減歩率計算は下記のとおりになる。

(単位：㎡)

整 理 前 宅地地積 (台帳地積)	同 更生地積 (測量増減 を加減し たもの)	整理後宅地地積		差引後減歩地積		減歩率 (%)	
		保留地を 含めた 宅地地積	保留地を 除いた 宅地地積	公共減歩 地 積	公共保留地 を合算した 減歩地積	公共減歩 地 積	公共保留 地 合算 減歩率
20,573	24,767	18,317	15,002	6,450	9,765	26.04	39.43

(4) 事業費

総事業費	31.98億円
補助金	20.07億円
保留地処分金	11.91億円

(5) 施行者

吹田市山田駅東土地区画整理組合

5 江坂町三丁目緑住土地区画整理事業

(1) 事業の目的

本地区は、大阪都心部へ北方10km圏に位置し、北大阪急行電鉄緑地公園駅、江坂駅に近接する交通至便な立地条件であるにもかかわらず、大半が生産緑地で農地を主とする土地利用が今日まで継続されてきた。周辺の宅地化農地の個別開発が進むと区域内は無接道地域となり、今後の土地利用に大きな障害となる。

これらの現状にかんがみ、良好な都市基盤の整備と増進を図るとともに、宅地化農地と生産緑地の交換分合等の土地利用整序を行い、スプロール化を防ぎ機能的な街並みを形成するものである。

(2) 公共施設の整備改善

ア 土地の種目別施行前後対照表

(単位：㎡)

種別	整理前	整理後	摘要
道路	169	2,618	国・府・市有道路
公園	—	500	
緑地	—	—	
水路	32	—	国
宅地	14,505	10,065	田・畑・宅地等(台帳地積)
測量増	990	—	
保留地	—	2,513	
計	15,696		

イ 道路計画

本事業完了時には次の道路が整備される。

(単位：m)

名 称	幅 員	延 長	摘 要
区 画 街 路	6.7	207	
	5.0	189	
	0.45	17	
小 計		413	
特 殊 街 路	1.45	—	府道
小 計		—	
合 計		413	

ウ 公園計画

名 称	面 積 (㎡)	摘 要
公 園	500	遊戯施設、修景施設等を設置予定
計	500	

(3) 減歩率

本地区の減歩率計算は下記のとおりになる。

(単位：㎡)

整 理 前 宅 地 地 積 (台帳地積)	同 更 生 地 積 (測量増減 を加減し たもの)	整 理 後 宅 地 地 積		差 引 後 減 歩 地 積		減 歩 率 (%)	
		保 留 地 を 含 め た 宅 地 地 積	保 留 地 を 除 い た 宅 地 地 積	公 共 減 歩 地 積	公 共 保 留 地 を 合 算 し た 減 歩 地 積	公 共 減 歩 地 積	公 共 保 留 地 合 算 減 歩 率
14,505	15,495	12,578	10,065	2,916	5,429	18.82	35.04

(4) 事業費

総 事 業 費 7.45億円

補 助 金 1.44億円

保 留 地 処 分 金 5.78億円

(5) 施行者

吹田市江坂町三丁目緑住土地区画整理組合

都市計画施設整備基金

(1) 制定時期 昭和60年(1985年)3月30日

(2) 趣 旨 都市計画施設の整備資金積立て

(3) 基金の額 77億9,676万4,352円(平成24年(2012年)3月末現在)

国鉄吹田駅前第一種市街地再開発事業

1 事業の目的

土地の合理的、かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図ることにより、次の各項の解消を目指し実施するもの。

(1) 公共施設の不備

地区の土地利用は3.62haのうち広場、道路が1.03haで28%しかなく、宅地が2.59haで72%を占め、区域内部の道路幅員も最大2.7mと狭い。

(2) 商工住の混在

住宅等の戸数296戸を面積比でみると住宅施設55%、併用店舗25%、業務施設9%、娯楽施設3%、工場・その他8%となっている。

(3) 人口の過密、建物の老朽過密

人口は1,034人、実質人口密度350人/haで、建物経過年数は46～49年が多い。

(4) 消防活動上の危険

消防車の進入可能な道が2路線しかなく、消防活動に支障がある。

2 事業の内容

(1) 施行面積 3.62ha (権利者数 386人)

(2) 事業の種別

都市再開発法第2条第1号に規定する第1種市街地再開発事業とする。事業の手法は権利変換(特則型)で行う。

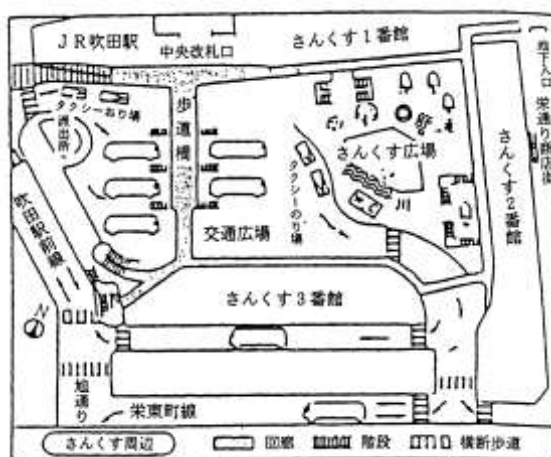
(3) 施設建築物

区 分		J R吹田駅	1 番館 (商業)	2 番館 (商業住宅)	3 番館 (事務所)	計
建築形態の 概 要	建築面積(m ²)	933	1,572	8,311	1,711	12,527
	延べ面積(m ²)	2,477	6,884	62,903	11,088	83,352
構 造		R C造	R C造	S R C造	S R C造	—
階 数	地 上	2	5	11	5	—
	地 下	—	—	2	2	—
建築物の最高高さ (m)		16.10	25.85	46.90	30.60	—

(4) オープン日 昭和54年(1979年)10月12日

(5) 土地利用

種別	区分	面積 (㎡)	比率 (%)
施設の敷地面積	J R 吹田駅	990	2.7
	1 番館	1,727	4.8
	2 番館	9,299	25.6
	3 番館	1,808	5.0
	小計	13,824	38.1
駅前広場		9,328	25.7
幹線街路		12,347	34.0
区画街路		778	2.2
合計		36,277	100.0



(6) 公共施設

区分	名称	計上寸法 (m)		
		幅員	延長	面積 (㎡)
街路	吹田駅前線	22	134	2,955
	同駅前広場	—	—	9,328
	佐井寺片山高浜線	25	232	5,807
	駅前1号線	20	98	1,960
	栄東町線	20	81	1,624
	小計	—	—	21,674
区画街路		8	97	778
合計		—	—	22,452

(7) 住宅の建設

区分	住宅戸数		延べ面積 (㎡)
	階数	戸数	
2番館	6~11	130	12,154

(8) 事業施行期間 昭和44年度(1969年度)～昭和54年度(1979年度)

(9) 事業費 200億4,000万円

3 吹田市開発ビル株式会社

(1) 資本金及び出資者

資本金は1億円で吹田市（41%）、アサヒビール、大阪ガス、毎日放送（各13%）及びりそな・三菱東京UFJ・三井住友銀行と摂津水都信用金庫（各5%）の各社が出資している。

(2) 事業目的

- ア 不動産の売買、賃貸及び管理
- イ 駐車場の経営
- ウ たばこ及び飲食料品等の販売
- エ 経営に関する調査研究及び指導
- オ 損害保険代理業、生命保険代理業、広告代理業
- カ 前各号に付帯する一切の事業

J R吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業

1 対象地域

片山町1丁目及び西の庄町の各一部 1.84ha

2 事業の目的

J R吹田駅北口周辺市街地再開発計画を進める中で、駅北口周辺の拠点として消費者ニーズの多様化に対応する商業施設の再整備と良質な都市型住宅の建設、併せて公共施設など総合的整備を図るため、都市再開発法（昭和44年（1969年）法第38号）に基づく第一種市街地再開発事業として実施するものである。

3 事業概要

(1) 事業の概要

事業名 吹田都市計画事業 J R吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業

施行者 吹田市 施行面積 約1.84ha

施行年度 平成2年度（1990年度）～平成7年度（1995年度）（公共施設部分は平成11年度（1999年度））

総事業費 約473億円

(2) 土地利用現況及び土地利用計画

区 分		現 況		計 画	
宅 地		14,026.40m ²	76.1%	5,691.74m ²	30.9%
公 共 用 地	道 路	3,863.65m ²	21.0%	12,728.97m ²	69.1%
	水 路	530.66m ²	2.9%	—	—
	計	4,394.31m ²	23.9%	12,728.97m ²	69.1%
合 計		18,420.71m ²	100.0%	18,420.71m ²	100.0%

(3) 公共施設整備計画

区 分	名 称	幅 員	延 長	面 積
都市計画道路	3. 4. 16 佐井寺片山高浜線	25～49m	237m	8,605.68㎡
	3. 5. 23 大阪高槻京都線	21m	64m	673.19㎡
	7. 6. 1 片山1号線	11m	298m	3,450.10㎡
計	3 路 線	—	—	12,728.97㎡

なお、その他の公共施設として、佐井寺片山高浜線及び片山1号線の地下部分に、都市計画駐車場（名称：JR吹田駅北自転車駐車場、駐車台数 約2,200台）を設置する。

(4) 施設建築物整備計画

区 分	メロード吹田一番館	メロード吹田二番館	合 計
敷地面積	5,260.38㎡	431.36㎡	5,691.74㎡
建築面積	3,148.99㎡	245.06㎡	3,394.05㎡
延べ床面積	45,460.07㎡(36,751.75㎡)	2,473.15㎡(2,473.15㎡)	47,933.22㎡(39,224.90㎡)
建ぺい率	59.87%	56.81%	—
容積率	698.66%	573.34%	—
階 数	38階／地下3階	10階／地下1階	—
高 さ	126.85m	42.50m	—
住宅戸数	251戸	—	251戸
駐車台数	440台	—	440台
駐輪台数	625台	—	625台

(注) () 内は法定容積対象面積

(5) 資金計画

(単位：百万円)

支 出 金		収 入 金	
ア 本工事費(その他補償費含む)	25,069	ア 公共施設管理者負担金	21,563
イ 測量及び試験費	1,719	イ 一般会計国庫補助金	3,459
ウ 用地及び補償費	18,382	ウ 市一般会計繰入金	983
エ 営 繕 費	168	エ 保留床処分金	21,271
オ 事 務 費	1,297		
カ 借 入 金 利 息	641		
合 計	47,276	合 計	47,276

4 その他

(1) 都市計画決定

J R吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業及び関連する都市計画が決定され、平成2年(1990年)3月9日付けで告示された。

(2) 事業計画決定

J R吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業にかかる事業計画については平成3年(1991年)1月30日付けで決定した。

(3) 権利変換計画認可

J R吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業の権利変換計画について平成3年(1991年)11月25日付けで知事認可、翌26日付けで公告した。

(4) 工事着手

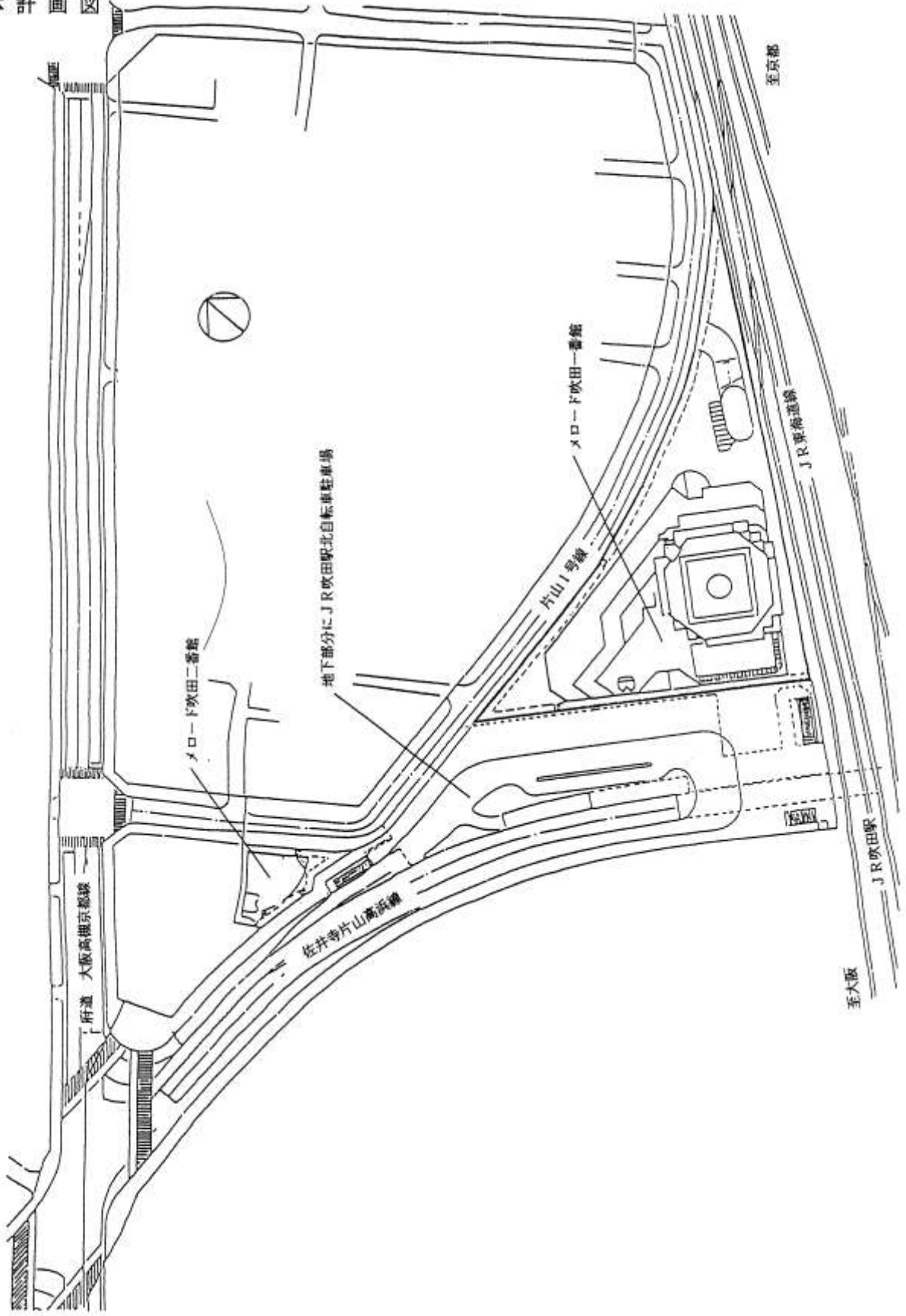
各施設の建設工事については、平成4年(1992年)8月、メロード吹田一番館及び都市計画道路佐井寺片山高浜線、J R吹田駅北自転車駐車を着工し、平成6年(1994年)9月には片山1号線、さらに同年10月にはメロード吹田二番館建設工事に着手した。

(5) オープン

メロード吹田一番館及び二番館については、平成8年(1996年)3月12日に建築工事完了公告をし、3月28日に竣工式を行い、3月29日にメロード吹田としてオープンした。残った公共工事のうちJ R吹田駅北自転車駐車場及び佐井寺片山高浜線建設工事を平成10年度(1998年度)から再開し、平成11年(1999年)10月にはJ R吹田駅北自転車駐車場が完成(2期工事分506台)、供用開始するとともに、メロード吹田駅前広場の修景広場工事等の関連工事を行い、駅前としての都市機能の更新が図られ、バス・タクシー乗り降り場が設置され、安全性と利便性が発揮されることになった。全ての工事は平成12年(2000年)3月末で完成した。

JR吹田駅北口地区第一種市街地再開発事業

全体計画図



山田駅周辺整備事業

1 計画区域

吹田市山田西3丁目及び4丁目の各一部 約5.7ha

2 事業の目的

山田駅周辺地区は大阪モノレールの開通により、本市で唯一駅が接しているという交通至便の立地特性を持った地区である。しかし、駅東側地区については一部中層の賃貸マンションが数棟見受けられる程度で、駅西地区を含め、大半が未利用地である。

このような地区を、現状のまま放置した場合、乱開発が十分に予測されることから、当地区を本市北部の地域核としてふさわしいまちとして、また、バリアフリー化された安全で快適な人にやさしいまちとなるよう、都市基盤整備を実施しようとするものである。

3 事業の概要

(1) 整備内容

まちづくり総合支援事業（土地区画整理事業、都市再生交通拠点整備事業、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設）により都市基盤施設等の整備を行い、まちのバリアフリー化を推進するものである。具体的な整備としては、山田駅東側は土地区画整理事業（都市再生区画整理事業）により、道路、公園等の都市基盤の整備を図ることに加え、駅西側は都市再生交通拠点整備事業により阪急山田駅と大阪モノレール山田駅間並びに阪急千里線東西間の歩行者動線の改善を始めとする公共空間の整備を行い、また、駅周辺地域については歩行者用デッキの設置等の整備を行うものである。

(2) 施行者

ア 土地区画整理事業（都市再生区画整理事業）については、吹田市を含む土地所有者12名及び借地権者1名の計13名での組合施行により、平成15年度(2003年度)に完了している。

イ 都市再生交通拠点整備事業については、阪急電鉄株式会社が整備主体となり、平成16年度(2004年度)に完了している。

ウ まちづくり総合支援事業（地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設）については、本市が施行主体となり、既に平成16年度(2004年度)に完了している。

(3) 事業スケジュール

駅東地区（約2.86ha）については、平成11年(1999年)3月25日に吹田市山田駅東土地区画整理組合の設立が行われ、平成12年度(2000年度)から平成14年度(2002年度)まで工事を行い、平成15年(2003年)9月24日組解散認可により事業が完了している。

駅西地区（約1.65ha）については、平成12年度(2000年度)から交通広場の整備に着手し、阪急山田駅舎の改良を含め、平成16年度(2004年度)に完了している。

また、事業全体としては平成16年度(2004年度)に完了している。

(4) 事業費

総事業費としては約44.73億円であり、各事業別事業費は次のとおりである。

ア 都市再生区画整理事業	約31.98億円
(鉄塔移設事業費及びまちづくり総合支援事業費の一部含む)	
イ 都市再生交通拠点整備事業	約 9.89億円
ウ まちづくり総合支援事業等	約 2.86億円

4 事業の経過

平成2年度(1990年度)で、山田駅周辺整備基本構想を取りまとめ、地区の位置付けや整備の方向の検討を行った。平成3年度(1991年度)、平成4年度(1992年度)においては整備基本計画調査等を実施し、地区の開発整備の方針、土地利用の基本方針、公共施設の整備方針等を取りまとめた。平成5年度(1993年度)、平成6年度(1994年度)、平成7年度(1995年度)は経済情勢の変化に伴う施設規模、内容等の見直しに伴う基本計画案の変更や区画整理基本計画案の作成及び課題処理方策の検討を行った。平成8年度(1996年度)はこの検討結果を受け、平成8年(1996年)9月25日に建設委員協議会を開催し、基本構想の基本理念を踏襲する中で当面の整備目標を都市基盤整備を主体に事業化を図る方針を説明し、了承を得た上、整備具体化計画、区画整理事業計画案の策定を行った。また、平成8年(1996年)12月から周辺自治会への説明会を行い、理解と協力を求めてきたところであり、平成11年(1999年)3月23日に吹田市山田駅東土地区画整理組合の設立認可を行い、同年3月25日に同組合が設立され、事業に着手したところである。

山田駅周辺整備事業の推進に際しては、市民参加、参画が不可欠であるという認識に基づき、市民の特に関心度の高い交通問題について市民、事業者、行政の三者により山田駅周辺交通問題懇談会を設置し、平成12年(2000年)1月より計8回にわたり会合を重ね、協議、検討を行い、一定の成案を得たところである。また、平成12年(2000年)7月から「山田駅周辺の将来像を考える」をテーマに山田駅周辺まちづくり懇談会を設置し、交通問題懇談会と同様に市民参画型のワークショップ方式により協議、検討を行い、本地区のまちづくりの基本方針となる「まちづくりガイドライン」の作成並びに「地区計画案」、「景観形成地区の指定に係る基準の素案」づくりを行い、懇談会で作成された案に基づき、都市計画の変更、地区計画の決定並びに景観形成地区の指定を行ったところである。

5 要綱の名称、制定年月日

吹田市山田駅周辺整備事業補助金交付要綱 平成11年(1999年)3月26日制定

藤白台地区第一種市街地再開発事業

1 計画区域

藤白台近隣センター 約1.1ha

2 計画の概要

藤白台近隣センターは、開設後30数年を経過する中で社会情勢・経済情勢の変化を受け、商業環境は非常に厳しい状況となっている。

この地区を現状のまま放置すれば各個開発が予測されることから、地区内関係者による組合施行として市街地再開発事業を実施し、周辺環境を考慮した土地利用を図るとともに、将来にわたり住区の生活支援施設としての近隣センターを再生するものである。

3 経過概要

昭和60～61年度 (1985～1986年度)	千里ニュータウン近隣センター活性化方策に関する報告書 (吹田市、豊中市、(財)大阪府千里センター)
平成3年度(1991年度)	千里ニュータウン近隣センター(藤白台等)調査報告書
〃 4年度(1992年度)	藤白台地区市街地再開発事業基本計画策定
〃 10年度(1998年度)	藤白台地区市街地再開発事業推進計画策定
〃 11年度(1999年度)	市街地再開発事業の効果の分析に関する調査 都市計画決定(地区計画、市街地再開発事業)
〃 12年度(2000年度)	市街地再開発組合設立認可、事業計画認可
〃 13年度(2001年度)	権利変換計画認可、施設建築物工事着工
〃 14年度(2002年度)	施設建築物完成
〃 15年度(2003年度)	市街地再開発組合解散

大阪モノレール

大阪における衛星都市間の交通は、大阪ターミナルを経由した放射状の極めて不便な交通形態となっていた。

このため、北摂市長会では交通混雑の緩和、車公害の防止、万博記念公園の広域的な利用の促進、大阪都市圏の均等的発展等を図るため、府道大阪中央環状線沿いにモノレール建設を要望した。

下記の経緯を経て、平成9年(1997年)8月22日には、門真市駅から大阪空港駅までの全線が開通した。

1 経緯

昭和48年(1973年)	北摂市長会で国・府等に対し要望
〃 49年(1974年)	大阪府において都市モノレールについての基礎調査
昭和50年(1975年)	中央環状線の自動車交通実態調査
〃 51年(1976年)	モノレール沿線地域整備構想に関する調査
〃 52年(1977年)	経営採算性等の調査
〃 55年(1980年)	測量、ボーリング等の実施、大阪高速鉄道株式会社の設立
〃 56年(1981年)	ルート、駅位置、車庫位置が大阪府より発表されるとともに、地元説明会が開催され、都市計画審議会の審議を経て計画の正式決定。(なお、都市計画決定告示 昭和57. 5. 17)
〃 56年度(1981年度)末	軌道法による運輸事業特許の取得
〃 57年(1982年)	千里中央駅～南茨木駅(約7.0km)の事業計画及び工事施行許可を受け、起工式が行われる。
平成2年(1990年)6月1日	第一期事業区間である大阪空港駅～南茨木駅間(約13.6km)のうち、千里中央駅～南茨木駅間の開業
〃 3年(1991年)3月7日	第二期事業区間として南茨木駅～門真市駅までの間(約8.1km)について事業認可
〃 3年(1991年)3月22日	軌道法による工事施行認可
〃 6年(1994年)9月30日	第一期事業区間のうち、柴原駅～千里中央駅間の開業
〃 9年(1997年)4月1日	第一期事業区間のうち、大阪空港駅～柴原駅間の開業
〃 9年(1997年)8月22日	第二期事業区間の南茨木駅～門真市駅間の開業

2 事業主体

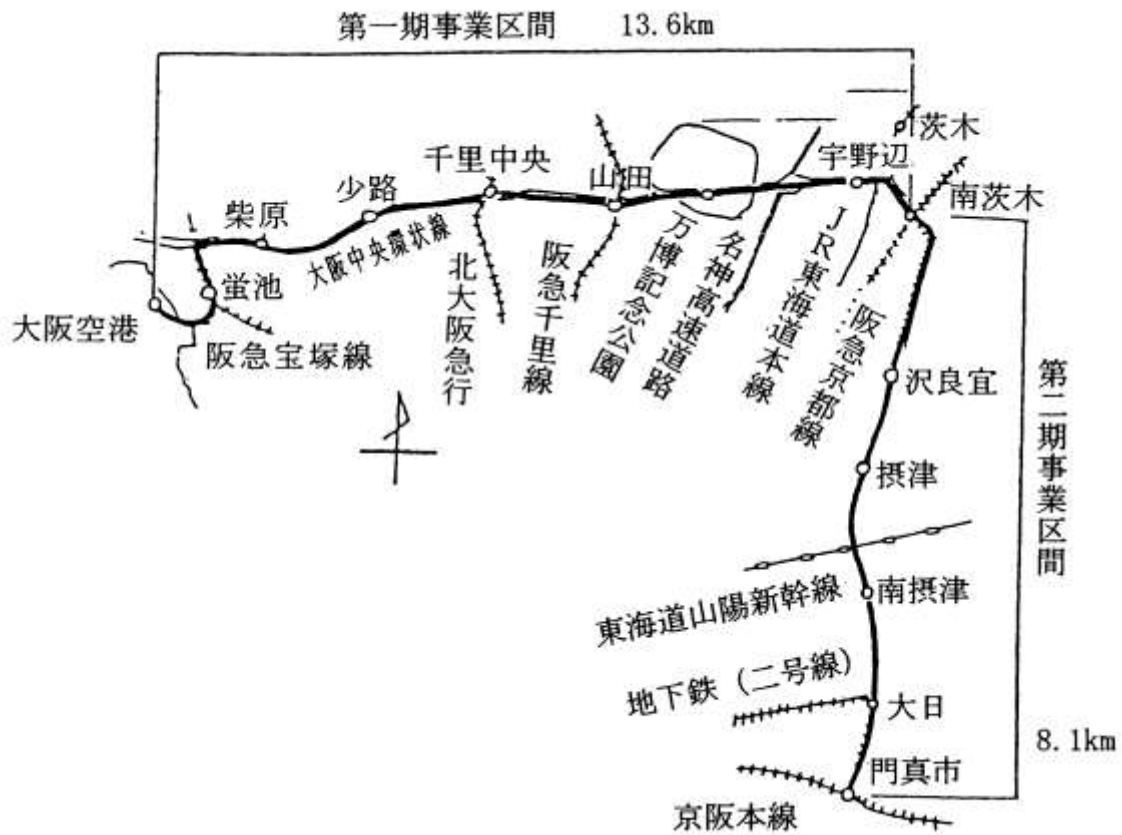
大阪府

3 運営主体

大阪高速鉄道株式会社

4 事業区間等

- ・区 間 門真市駅～大阪空港駅
- ・所要時間 約36分
- ・形 式 跨座型モノレール
- ・車両定員 約400人（4両編成時）
- ・運 転 ワンマン運転



国際文化公園都市モノレール

本計画は国際文化公園都市（箕面市、茨木市）から大阪方面への輸送を確保するとともに、国際文化公園都市と千里周辺の文化学術研究施設群、さらには大阪空港や新幹線との広域的な交通ネットワークと連絡を図るものである。

第一期事業区間の万博記念公園駅から阪大病院前駅間（2.6km）は、下記の経緯を経て、平成10年(1998年)10月1日に開通し、第二期事業区間のうちの阪大病院前駅から彩都西駅間（4.2km）は、平成19年(2007年)3月19日に開通した。

1 経緯

昭和61年(1986年)11月	国際文化公園都市構想発表、交通アクセスとしてのモノレール利用
〃 63年(1988年)1月	万博記念公園駅に分岐部設置協議
〃 63年(1988年)9月	分岐部工事認可
平成元年(1989年)5月	分岐部完成、運輸政策審議会第10号答申で位置付け
〃 4年(1992年)7月	吹田市都市計画審議会
〃 5年(1993年)1月	第一期事業区間軌道法による運輸事業特許の取得
〃 5年(1993年)11月	第一期事業区間都市計画決定告示
〃 6年(1994年)2月	第一期事業区間都市計画事業認可
〃 6年(1994年)3月	第一期事業区間軌道工事施行認可・工事着手
〃 7年(1995年)9月	第二期事業区間軌道法による運輸事業特許の取得
〃 7年(1995年)11月	第二期事業区間都市計画決定告示
〃 8年(1996年)5月	第二期事業区間軌道法に基づく施行認可進達
〃 9年(1997年)1月	第二期事業区間軌道工事施行認可
〃 9年(1997年)2月	第二期事業区間都市計画事業認可
〃 10年(1998年)10月1日	第一期事業区間の万博記念公園駅から阪大病院前駅間の開業
〃 19年(2007年)3月19日	第二期事業区間のうち、阪大病院前駅から彩都西駅間の開業

2 事業主体

大阪府

3 運営主体

大阪高速鉄道株式会社

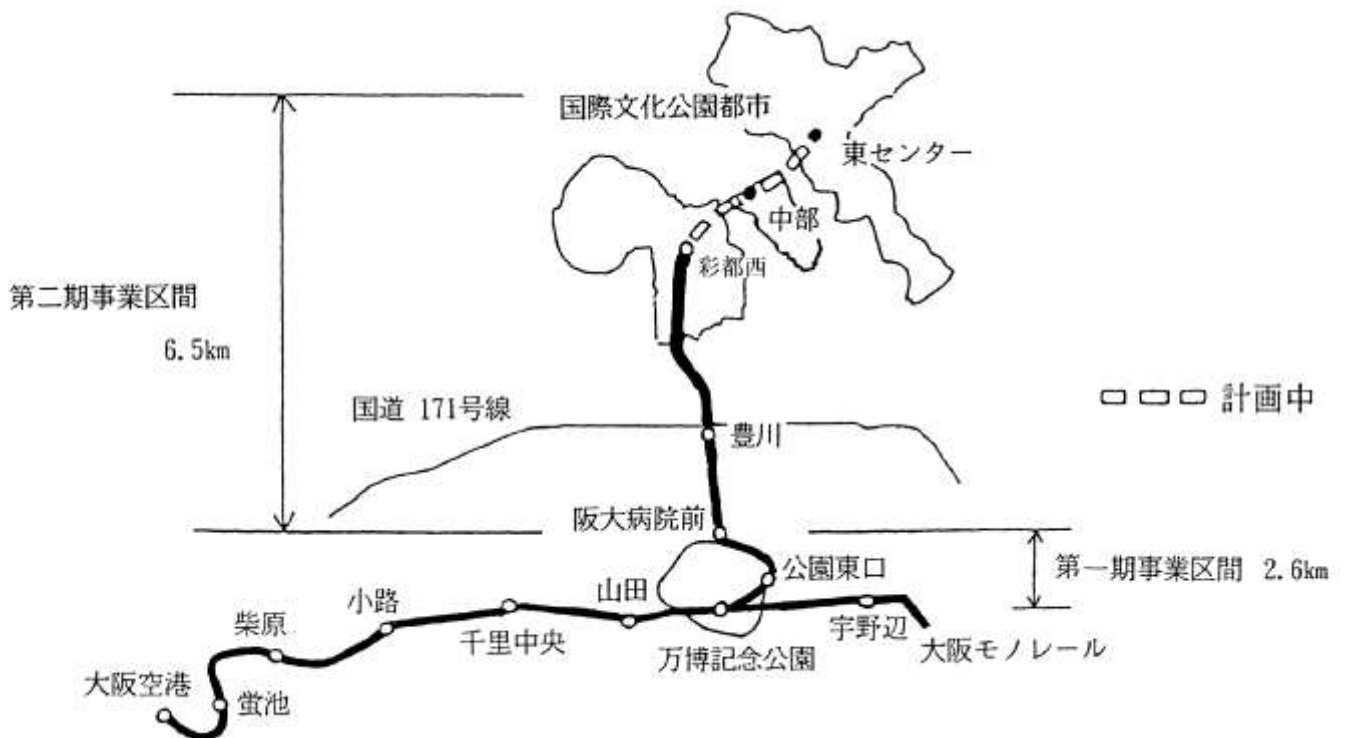
4 事業区間等

第一期事業区間（約2.6km）

- ・区 間 万博記念公園駅～阪大病院前駅
- ・所要時間 約6分
- ・形 式 跨座型モノレール
- ・車両定員 約400人（4両編成時・将来6両編成）
- ・運 転 ワンマン運転

第二期事業区間（約6.5km）

- ・区 間 阪大病院前駅～（仮称）東センター駅（国際文化公園都市内）
- ・所要時間 約11分
- ・形 式 跨座型モノレール
- ・車両定員 約400人（4両編成時・将来6両編成）
- ・運 転 ワンマン運転



大阪外環状線(おおさか東線)鉄道事業

大阪外環状線(おおさか東線)は、JR城東貨物線を複線電化し旅客線化するもので、建設区間は東海道線新大阪駅～関西線久宝寺駅間延長20.3kmで、駅数は新駅を含め13駅となっている。(本市内は南吹田2丁目に新駅の設置予定)

本市では、沿線市など関係団体とともに城東貨物線電化客車運行促進連盟及び大阪外環状線鉄道建設連絡協議会を通じ本路線の早期事業化を要望した結果、平成8年(1996年)11月に建設主体となる第三セクター大阪外環状鉄道株式会社を設立、同年12月には鉄道事業免許を取得した。平成11年(1999年)2月に都島～久宝寺間の環境影響評価書を大阪府知事に提出し、同区間の工事施行について国土交通大臣認可を取得し、平成11年度(1999年度)より本工事に着手した。

また、都島～新大阪間については、平成14年(2002年)11月に環境影響評価書を大阪府知事に提出し、同区間の工事施行認可が平成14年(2002年)12月に大臣認可された。

南区間(放出～久宝寺間)が平成20年(2008年)3月15日に開業し供用開始され、北区間(新大阪～放出間)については、平成21年(2009年)9月に工事計画の変更及び工事完成期限の延長について、運輸局長及び大臣認可され、平成30年度(2018年度)末に完成予定である。

今後とも関係者と協力し、出資団体としての財政的支援等を行っていく。

1 建設主体

大阪外環状鉄道株式会社(第三種鉄道事業者)

(大阪府、大阪市、東大阪市、吹田市、八尾市、西日本旅客鉄道株式会社等の出資による第三セクター。)

2 運営主体

西日本旅客鉄道株式会社、日本貨物鉄道株式会社(共に第二種鉄道事業者)

3 事業概要

整備延長 ・全区間 新大阪駅～久宝寺駅間(約20.3km)

・新線建設区間 新大阪駅～淡路駅(約3.2km)

・複線化区間 淡路駅～久宝寺駅(約17.1km)

・電化区間 新大阪駅～久宝寺駅間(約20.3km)

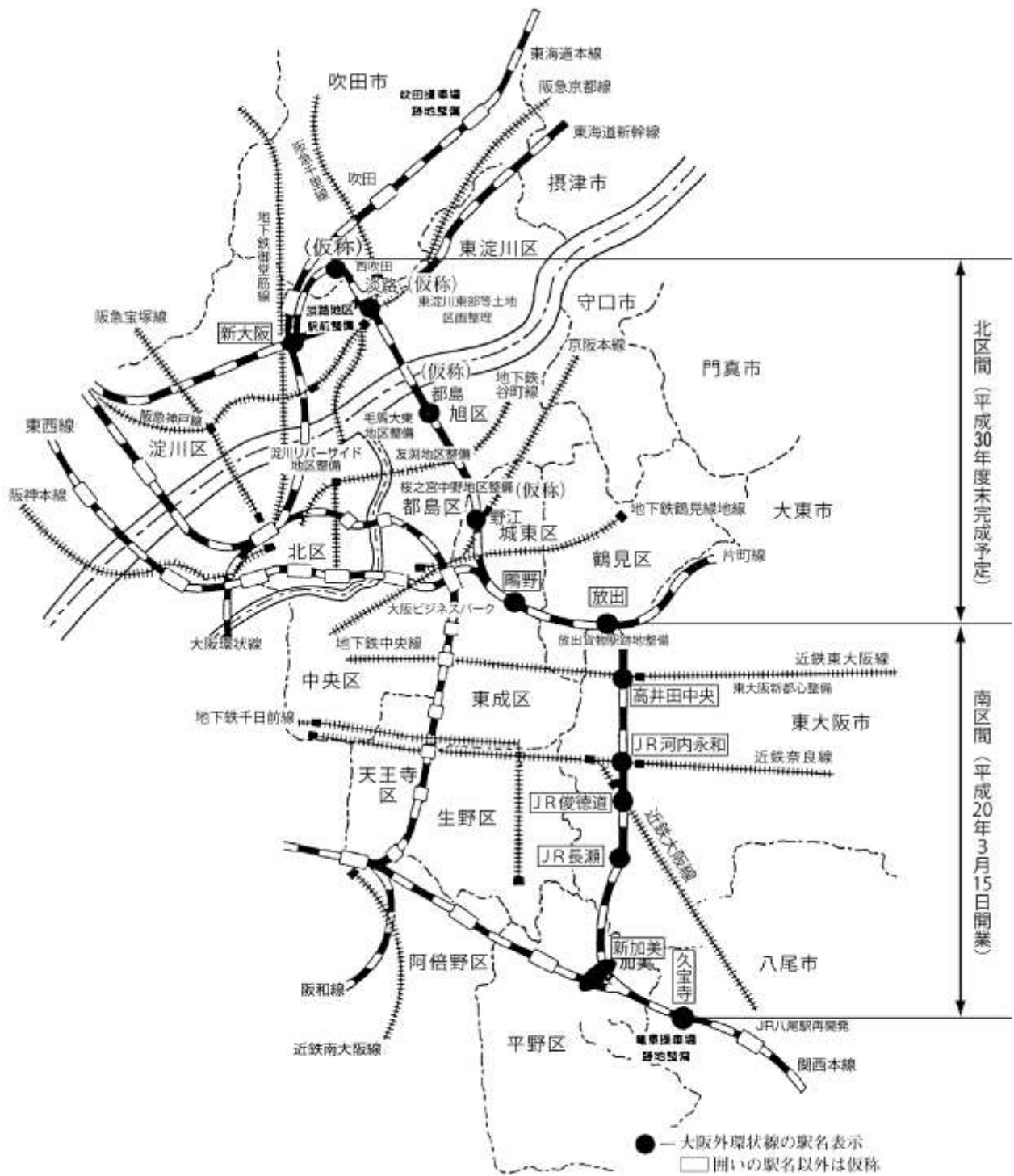
旅客駅 ・設置駅数 13駅 ・ホーム長 8両対応

事業手法 ・国の「幹線鉄道等活性化事業費補助制度」の適用による鉄道整備

・連続立体交差事業(JR俊徳道～新加美間 約3.5km)の実施

整備時期 ・放出駅～久宝寺駅 平成20年(2008年)3月開業

・新大阪駅～放出駅 平成30年度(2018年度)末完成予定



千里山駅周辺整備事業

1 目 的

千里山地区は、大正末期に阪急千里線が開通し、千里山に住宅地が開発された後、順次、市営住宅、公団住宅などが建設され、閑静な住宅地として発展を続けてきた。千里山駅東側には築後50年を経過した千里山団地があり、住宅の老朽化の進行と現在の生活水準からして手狭な居住面積や設備水準の向上及び高齢化への配慮などを踏まえ、良好な住宅環境の形成が求められている。

一方、佐井寺地区、千里山高塚地区では、新たな市街地が形成され、千里山駅へのアクセス道路の役割を果たす都市計画道路千里山佐井寺線及び駅前交通広場の整備が求められる。また、千里山駅前の踏切に隣接する交差点を中心とした交通混雑の解消や、駅周辺地区の歩道整備及び自転車駐車場の整備など、安全で快適な歩行空間の充実化が求められる。

2 事業の概要

老朽化した千里山団地については、都市再生機構等による建替事業により、自然地形や緑の保全に配慮し、居住性能の高い住宅、良好な住環境を備えた住宅地創出を図る。

また、交通混雑を解消するため、建替事業と一体的・総合的に都市計画道路千里山佐井寺線の整備促進に努めるとともに、駅前交通広場、自転車駐車場などの都市基盤施設を整備し、生活関連施設やサービス機能の立地、及び公共空間のバリアフリー化を促進することにより、駅前にふさわしい整備を図る。

3 これまでの経過

- 平成7年度(1995年度) 住宅市街地整備総合支援事業の整備計画広域調査を実施し、地区の現況調査位置付け、整備の基本構想、整備課題の抽出を行った。
- 〃 8年度(1996年度) 整備計画(その1)の策定を行った。特に公共施設の整備にかかる関係者の意見調整を図り、整備の方向性を検討した。
- 〃 9年度(1997年度) 整備計画(その2)として、平成8年度(1996年度)の調査を受け、公共施設整備と住宅整備の構想を検討した。
- 〃 10年度(1998年度) 平成9年度(1997年度)までの調査を受け、整備計画の中の問題点等について、関係各機関との協議、調整を行った。
- 〃 11年度(1999年度) 当該事業の整備における効率性を検証するための「費用対効果分析検討調査」を行い、また、駅を中心とした現況測量を行った。
- 〃 12年度(2000年度) 都市計画道路の迂回路検討、駅前交通広場を含む道路等の概略設計を行った。
- 〃 13年度(2001年度) 以上の成果について、都市基盤整備公団等、関係機関と協議・検証し、課題事項の抽出・整理を行った。

- 平成14年度(2002年度) 事業実施には、大きな要件である事業費軽減方策について、都市基盤整備公団と協議を進めた。
- 〃 15年度(2003年度) 都市基盤整備公団と事業の推進を図るため、事業費軽減方策等について、勉強会を4回実施するとともに、都市計画道路千里山佐井寺線の変更の在り方についても大阪府総合計画課と協議を行った。
- 〃 16年度(2004年度) 都市基盤整備公団は、7月1日付けで独立行政法人都市再生機構となった。そのことにより、団地の建て替えをどの手法(補助制度)で進めるのかを国土交通大臣に報告することと、また、団地の建て替えを急いでいるため、本市では、駅周辺の都市基盤施設整備と一体的に取り組んでいくことを政策決定し、事業化に向けた協議、調整を行った。
- 〃 17年度(2005年度) 市民との協働のもとに千里山駅周辺地区のまちの将来像について意見を取りまとめることを目的として、7月28日に第1回千里山駅周辺まちづくり懇談会を開催して以来、計8回開催し意見集約を図った。また、千里山駅周辺整備の基本計画を策定した。
- 〃 18年度(2006年度) 平成17年度(2005年度)に引き続き、千里山駅周辺まちづくり懇談会を計11回開催した。また、都市計画道路千里山佐井寺線など、駅周辺の公共施設整備の計画を検討するための予備設計などを行うとともに、千里山地区住宅市街地総合整備事業の整備計画を策定し、大臣承認を得ている。
- 〃 19年度(2007年度) 千里山駅周辺まちづくり懇談会を引き続き計3回開催した。また、都市計画道路千里山佐井寺線の都市計画変更を行った。
- 〃 20年度(2008年度) 千里山駅周辺まちづくり懇談会を7回開催した。また、千里山地区住宅市街地総合整備事業の事業計画を策定し、大臣同意を得ている。都市計画道路千里山佐井寺線(星が丘工区)等の都市基盤施設を、独立行政法人都市再生機構の直接施行により整備することについて議会同意を得た。
- 〃 21年度(2009年度) 千里山駅周辺まちづくり懇談会を4回開催した。住宅市街地総合整備事業の事業計画に基づき、都市計画道路千里山佐井寺線、千里山跨線橋線等の実施設計を行った。駅西側の道路整備等について都市再生整備計画を策定し、大臣承認を得ている。

平成22年度(2010年度) 「千里山駅周辺まちづくり懇談会」の提案に対する本市の考え方を報告する場として、名称を「千里山駅周辺まちづくり報告会」と改め、4回開催した。また、都市再生機構の千里山団地の除却に合わせて、都市再生機構の用地を取得するとともに、都市計画道路千里山佐井寺線の粗造成を行った。駅西側については交差点改良点等の詳細設計を行った。

〃 23年度(2011年度) 都市再生機構による直接施行制度を活用し、都市計画道路等の整備に着手しました。駅西側の交通安全施設や駅東側の電線共同溝施設等の実施設計を行いました。

4 今後の取組

市民、事業者、行政などが協働しながら、千里山駅周辺まちづくり報告会などを継続的に開催することで、円滑な事業推進に努めてまいります。

駅東側は、都市再生機構の千里山団地の建替え計画に合わせて、都市再生機構と連携し、社会資本整備総合交付金事業により、都市計画道路、駅前交通広場等の都市基盤施設等について一体的な整備を行います。

また、駅西側は駅前交差点の交通混雑の解消や周辺の歩行者の安全性を確保するため、社会資本整備総合交付金事業により、道路改良等の整備を行います。

景観まちづくり推進事業

1 事業の概要

本市では、平成5年(1993年)3月に「吹田市都市景観形成基本計画」を策定し、さまざまな取組を進めてきた。平成19年(2007年)3月には基本計画の見直しを行い、次代につなぐ良好な都市景観を「まもり、つくり、はぐくむ」ための基本的な方向性を示すものとして「吹田市景観まちづくり計画」を策定した。

平成16年(2004年)に初めての景観に関する総合的な法律である「景観法」が制定され、本市では平成20年(2008年)4月から景観法に基づく景観行政団体となり、平成21年(2009年)4月から「吹田市景観まちづくり条例」、「吹田市景観まちづくり計画を推進するための景観形成基準」の運用を行っている。

誇りや愛着の持てる吹田らしい景観、快適な暮らしの環境の創造に資する美しい景観を「まもり、つくり、はぐくみ」、未来のこどもたちへ確実につなぐため、市民、事業者、専門家等及び市の相互の協働により景観まちづくりを推進していく。

2 これまでの経過

平成5年(1993年)3月	「吹田市都市景観形成基本計画」策定
平成6年(1994年)3月	「景観形成推進プラン」作成
平成6年(1994年)3月～	「吹田市景観デザインマニュアル」作成
平成9年(1997年)3月	「吹田市都市景観要綱」策定(同年7月施行)
平成19年(2007年)3月	「吹田市景観まちづくり計画」策定
平成20年(2008年)4月	景観法に基づく「景観行政団体」となる
平成20年(2008年)12月	「吹田市景観まちづくり条例」制定(平成21年4月施行)
平成21年(2009年)4月	「吹田市景観まちづくり計画を推進するための景観形成基準」 (景観法第8条第1項の景観計画)策定
平成22年(2010年)3月	「吹田市景観デザインマニュアル」改定

3 区域、地区等の指定

(1) 景観計画区域の指定

指定年月日：平成21年(2009年)4月1日

指定区域：吹田市全域(3,611ha)

(2) 景観形成地区の指定

指定年月日	地区名	面積
平成14年(2002年)7月1日	山田駅周辺地区	約4.6
平成17年(2005年)8月2日	新芦屋上地区	約4.0
平成20年(2008年)1月16日	長野東地区	約8.8
平成22年(2010年)3月15日	戸建・低層住宅地区(青山台4丁目(1))	約1.1
平成22年(2010年)3月15日	公共・公益施設地区(藤白台4丁目(1))	約1.1
平成22年(2010年)3月15日	中高層住宅地区(佐竹台1丁目(1))	約2.9
平成22年(2010年)3月15日	中高層住宅地区(佐竹台2丁目(1))	約4.7
平成22年(2010年)8月23日	中高層住宅地区(竹見台4丁目(1))	約2.9
平成22年(2010年)8月23日	原町4丁目・岸部北2丁目地区	約3.5
平成23年(2011年)7月22日	中高層住宅地区(青山台2丁目(1))	約2.0
平成23年(2011年)7月22日	中高層住宅地区(藤白台3丁目(1))	約5.4
	合計	約41.0